

吃音の話し方について

吃音（ことばがどもる）の話し方には、次の3つがあります。

音の繰り返し



音の引き伸ばし



音のつまり



音の繰り返しと引き伸ばしは、外にあらわれるため、他の人にもわかりやすいです。

しかし、音のつまりは、外にあらわれないため、他の人にはわかりにくいです。そのため、他の人から、「話を聞いていなかったから、答えられない」、「答えがわからないから、答えられない」と誤解されることが少なくありません。

特に、小学校高学年以降の吃音のあるお子さんは、音のつまりが多くなります。そこで、これらのお子さんとは接する際は、「ことばがすぐに出てこない時は、吃音のためにことばがつまっているのかもしれない」と考え、お子さんに早く話すよう促したり、ことばが出てこないことを責めたりしないようにします。そして、お子さんのことばが出るまで、ゆっくりと待ちましょう。

吃音のあるお子さんが、吃音による誤解を受け、悲しい思いをしないですむよう、周りの方が吃音を正しく理解し、適切なお配慮をいただければと思います。何とぞ、よろしくお願いたします。